

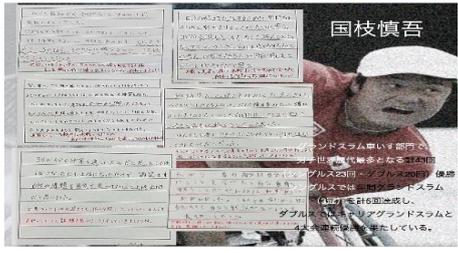
# 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福岡県 】

学校名【 中間市立中間中学校 】

1 実践テーマ	<input checked="" type="radio"/> I · II <input checked="" type="radio"/> III <input checked="" type="radio"/> IV <input checked="" type="radio"/> V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	全学年 156名 (1年生:63名、2年生43名、3年生50名)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 <input checked="" type="radio"/> ① 教科名 ( 総合的な学習の時間、道徳科、保健体育科 ) <input checked="" type="radio"/> ② 行事名 ( NAKA 中オリンピック2020 ) <input type="radio"/> ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 <input type="radio"/> ① イベント名 ( ) <input type="radio"/> ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	2020 東京オリンピック競技大会への興味・関心を高めるとともに、生徒一人一人が個人としてスポーツを愛し、楽しもうとする心情を育む。また、障がい者スポーツを通して、生徒一人一人に多様性を認めながら共生する社会の構成者としての自覚をもたせる。
5 取組内容	<p>取組1 (1)「道徳科」「保健体育科」での関連学習…テーマ I・IV</p> <p>教科書に掲載された教材の学習によって、努力の喜びやフェアプレイ、他者への尊厳、卓越性の追求などオリピズムの教育的価値への気づきをねらった。</p> <p>学習の成果物はカラー拡大印刷し、「オリパラコーナー(廊下掲示)」に貼り出し、生徒の興味喚起に役立てた。</p> <p>保健体育の授業では体育理論の学習で取り上げ、オリ・パラコーナーに掲示した情報を整理し、レポートするなどの学習活動を行った。</p> <p>さらに、探求学習として「スポーツの歴史」をとりあげ、パワーポイントを使い、発表資料の作成をした。</p>



取組1 (2) 人権教育DVDを使用した事前学習

9月1・2年生は「Voice 人権の教室」、3年生は「知りたい あなたのこと」というDVD教材を視聴させ、多様性を尊重する気持ちの涵養に努めた。

取組2 松元選手による講演と体験学習…テーマⅢ



デフサッカーの選手として国内外で活動している松元卓巳さんを招聘して、競技に向ける思いや障がいをもちながら挑む自己実現の道のりについて講演を行った。また、耳栓を装着し、聴覚障がいを擬似体験したうえでのゲーム【デフサッカーの体験学習】を行った。



取組3 NAKA 中オリンピック 2020……テーマⅤ

デフサッカーの体験学習を生かした競技（ピストルではなく旗でのスタート+ドリブルでのスラローム走）、瞬発力・持久力・筋力・敏捷性・スピードなどの運動能力の諸相を生かした種目、走種目（リレー）をクラスマッチ形式で競技した。



6 主な成果

さまざまな学校行事がコロナ禍で制約を受ける中、学校外の人材からの講演を聞いたこと、体験学習において直接指導していただけただけことは貴重な体験となった。

事前学習として取り組んだ人権教育のDVDには、豊かな人権感覚を養うことができる価値ある情報が収録されており、オリンピック・パラリンピックについて学習することはもちろん、女性差別についての視点ももつことができた。

学習後のアンケート結果から、多くの生徒が学習前よりオリンピック・パラリンピックへの興味・関心が高まったこと、また、デフサッカー体験を通して、日ごろ気づかなかった障がいへ目を向けようとする意識が芽生えたことがわかった。

凡例 1：とてもそう思う 2：思う 3：あまり思わない 4：思わない

松元選手のお話を聞いて障がい者スポーツについて興味をもつことができました。

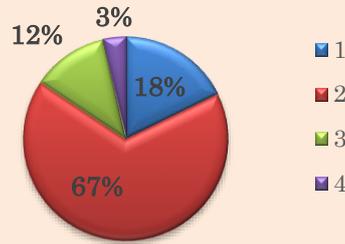


図1：講演後の生徒意識

体験学習を通して、見えない（気づくことができない）障がいについて考えることができました。

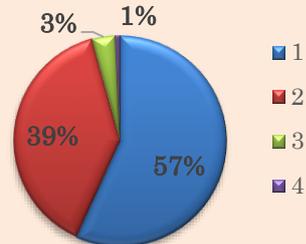


図2：体験学習後の意識

講演・体験授業後に書いた感想には「コミュニケーションをとらなければ、パスなどのプレーも難しいことがわかった。当たり前のことが当たり前ではなくなったらという視点で考えることができました。」「今回のお話を通して、どんな人でも過ごしやすいようにしたいと思いました。まずは、いろいろな方法を使い、相手に伝わりやすいよう工夫をしたいです。」などの記述が見られた。生徒の中に自分がインクルーシブな社会の構成員であり、自分の行為や気持ちの持ち方が社会につながっているという気づきがあったことを示していると考えられる。

7実践において工夫した点（事業の特色）

取組内容にある1から3の取組が単発のものとならないように教科（保健体育）、道徳などの年間計画を改めて見直し、立案した。  
取組1では、10月までにオリンピック・パラリンピアンを題材とする教材の学習ができるよう、道徳の年間計画を変更した。  
取組3では保護者の参観も可とし、新型コロナウイルス感染防止のため中止とした体育会の代替行事として位置づけた。

8主な課題等

課題としては次の2点を挙げる。  
① 道徳の学習が先行し、「オリンピック・パラリンピック推進教育」としての実践であることが生徒になかなか定着しなかった。テレビ世代の教員に比べ、自分の興味に従いメディアを視聴できる生徒にとって、オリンピック・パラリンピアンへの関心はさほど高くなく、両者の意識格差が授業実践に影響した。  
③ 講演と体験授業を同一日程で行ったため、講師と生徒の交流機会が十分に確保できなかった。学習し続けようとする意欲をもたせるには、この交流の機会をできるだけ多く作りたい。

9来年度以降の実施予定

道徳においては、次年度も引き続き、オリンピックやパラリンピンの生き方から学んでいく。その際、今年度作成した掲示物を参考資料として活用する。取組3で実施したNAKA中オリンピックからは、行事の呼称と半日開催というスタイルを踏襲し、令和3年度開催の東京オリンピックと関連付けた学習を行う予定である。